

# NODA HIROSHI



《やませみ》(部分) 1971年、油彩・板、豊橋市美術館

## 野田弘志—真理のリアリズム [特別展]

### Noda Hiroshi: Absolute Realism

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日／月曜日(ただし9月19日、10月10日、31日は開館)、9月20日(火)、10月11日(火)

主催／奈良県立美術館、朝日新聞社

後援／奈良テレビ放送、奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社

観覧料／一般 1,200円(1,000円) 大学・高校生 1,000円(800円) 中学・小学生 800円(600円) \*()内は20名以上の団体料金

\*身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳(アプリを含む)をお持ちの方と介助の方1人、外国人観光客(長期滞在者・留学生を含む)と付添の観光ボランティアガイドの方は、無料でご観覧いただけます。

〒630-8213 奈良県奈良市登大路町10-6 Tel:0742-23-3968 / Fax:0742-22-7032 / テレフォンサービス:0742-23-1700

最新の情報は当館ホームページにてご確認ください。[ホームページ] <https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

2022年9月17日(土)–11月6日(日)

奈良県立美術館  
Nara Prefectural Museum of Art

野田弘志(1936-)は、日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人です。東京藝術大学を卒業後、イラストレーターとして多忙な日々を送る中で、絵画制作への想いが高まり、30代半ばより画業に専念するようになりました。広島市立大学芸術学部で後進の指導にあたったのち、現在は北海道のアトリエで日夜制作に没頭する日々を送り、傘寿を超えてなお、リアリズムの画壇をけん引し続けています。

本展は、画家・野田弘志の最初期から近作まで、その画業の全容を回顧するものです。自身のスタイルを模索していた学生時代の作品、広告会社時代のイラストやデザイン。画壇デビューを果たした頃の細密な静物画群(「黒の時代/金の時代」)から、その名が全国的に知られる契機となった新聞連載小説『湿原』(加賀乙彦著)の挿絵原画。骨、あるいは生ける人間を描き、死生観を示そうとしたシリーズ「TOKIJIKU(非時)」 「THE」、そして近年手掛けている等身大肖像のシリーズ「聖なるもの」「崇高なるもの」まで。人物・静物・風景、いずれのモチーフを前にしても、一貫してひたすらに見つめ、描くことで「在る」ということを突き詰めようと、野田弘志が歩んできたリアリズムの道をたどります。

# NODA HIROSHI

見える世界を見つめ尽くし、描き尽くす

野田弘志「リアリズム絵画入門」芸術新聞社



## 大自然の生と死を見つめる

《TOKIJIKU(非時) XII Wing》  
1993年、油彩・カンヴァス、豊橋市美術館



「風景を描くということは、この星の重量を捉えることだ。  
すべての生命の生成と消滅を支える、  
地球の存在そのものを描くということなのだ。」

——野田弘志「聖なるもの 野田弘志画集」求龍堂

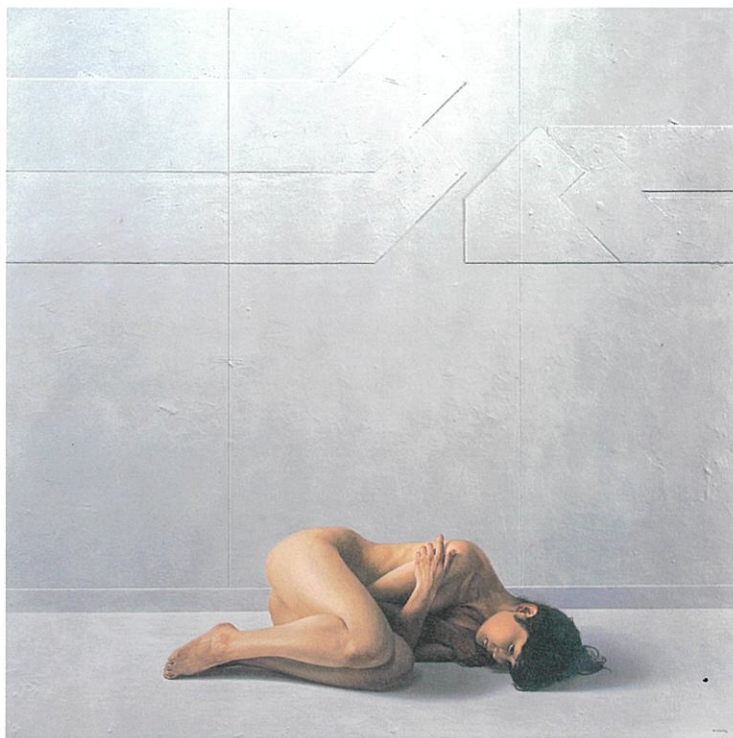
《朝の美ヶ原》2005年、油彩・カンヴァス、松本市美術館



## 「在る」とは何か

壁に張られた一本のロープ。しかしこのロープに意味はなく、ある空間を占めているひとつの存在として、そこに在るだけです。モノがあるという現実をただシンプルに見つめて、空間の隅々まで見事に描きだされています。

《THE-9》2003-04年、油彩・カンヴァス、姫路市立美術館



## 命をつなぐ営みの奇跡

ある日庭で見つけた小さな鳥の巣。「工芸品のように緻密で、まるで小さな要塞のように頑丈」な姿に感動した画家は、その存在の重みを、2m×2mという巨大なキャンバスに託して描きだしました。

《聖なるもの THE-IV》2013年、油彩・カンヴァス、ホキ美術館

## 今、目の前にある生命を描く

《THE-1》1997-2000年、油彩・カンヴァス、一番星画廊

# Noda Hiroshi: Absolute Realism

### ◎関連イベント

※すべて参加費無料。ただし本展当日の観覧券が必要。  
※イベントの最新情報は美術館公式HPでご確認ください。

### 1. オープニング記念 特別鼎談

9月17日(土) 14時～(約90分) レクチャールーム(1F)  
語り手/野田弘志氏(画家)、南城守氏(美術評論家・絹谷幸二天空美術館顧問)  
聞き手/当館学芸員  
定員/50名(要事前申込・先着順)

#### 【特別鼎談の参加申し込みについて】

お申し込みは9月1日(木)からEメールまたは電話にて受け付け、  
定員に達し次第締め切ります。申し込み方法の詳細は  
当館ホームページ (<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>) などでご確認ください。

### 2. 美術講座

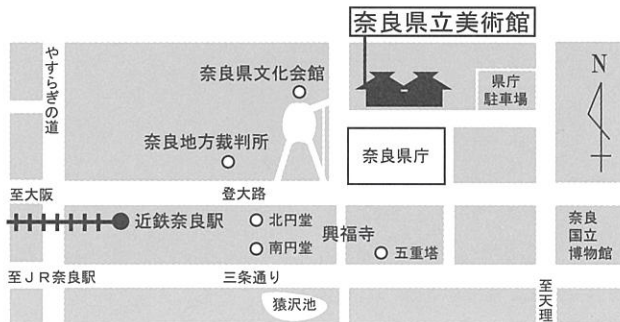
10月23日(日) 14時～(約90分) レクチャールーム(1F)  
講師/深谷 聡(当館主任学芸員) 定員/50名(先着順)  
※当日13時より当館受付にて整理券を配布します。

### 3. 当館学芸員による展示ガイド

10月1日・15日、11月5日(いずれも土曜日) 14時～ 展示室

### ◎同時開催

奈良・町家の芸術祭はならあとによる連携展示  
「未来へ繋ぐサステナブルなアートプロジェクト～はならあとの活動紹介～」  
1Fギャラリー/入場無料



◎交通案内  
近鉄・奈良駅1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分  
JR・奈良駅東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車

## 奈良県立美術館 Nara Prefectural Museum of Art

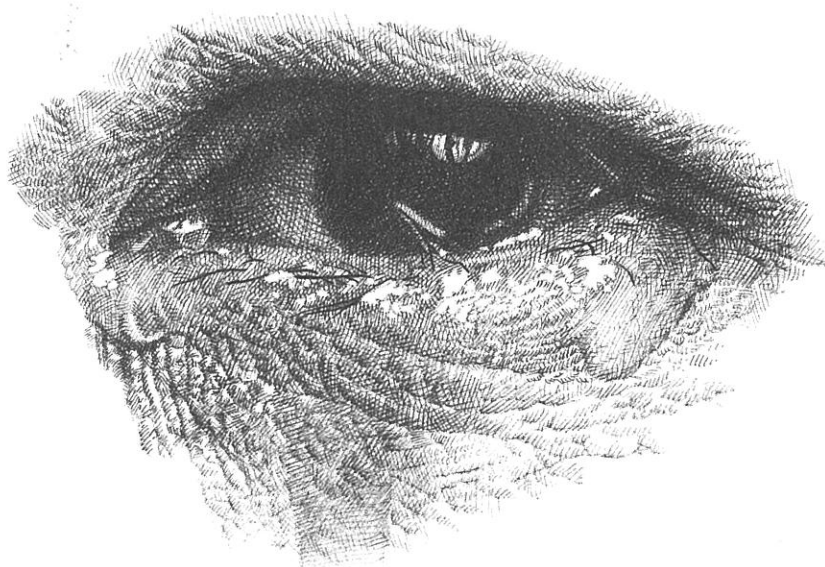
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町10-6  
Tel: 0742-23-3968 Fax: 0742-22-7032 テレホンサービス: 0742-23-1700  
[ホームページ] <https://www.pref.nara.jp/11842.htm>



奈良県立美術館ファンクラブメール会員募集  
詳しくは美術館HPまで



# NODA HIROSHI



《涙》(部分) 1983年  
鉛筆・紙  
豊橋市美術博物館

## Noda Hiroshi: Absolute Realism

Organizers / Nara Prefectural Museum of Art, The Asahi Shimbun

Address / 10-6, Noborioji-cho, Nara-city, Nara 630-8213, Japan

Phone / +81-742-23-3968 <https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

2022.9.17 [Sat]—11.6 [Sun]

Nara Prefectural Museum of Art